

【ワークショップ (W1~W4)】

W1 10:00~12:30 精神医学・精神医療における描画

富澤 治 (とみさわクリニック)

「精神医学は精神疾患・精神障害を治療する精神医療の礎となる学問的背景でありその基盤には生理学、生化学、分子生物学などの自然科学や心理学、疾患の背景を哲学的に論考する精神病理学などが存在し、その根拠を支えている。

芸術療法は精神医療や、心理臨床の実践、精神や身体健康増進活動などの際に「芸術表現」を介在させる技法全般を指す。本ワークショップでは精神医学・精神医療の中で芸術療法、特に描画療法がどのような特異性を持っているのか考えてみたい」

W2 10:00~12:30 構造論的描画療法

牧瀬 英幹 (中部大学)

絵を描く際に、クライアントは多くを語っている。特に、子どもとの描画セッションでは、描画とともに生まれる子どもの語らいの多様性に驚かされる。このようなクライアントの語りやクライアントを取り巻く言語との関係から描かれたものの意義を検討していく描画法、それが「構造論的描画療法」である。本ワークショップでは、構造論的描画療法の基本的な考え方とその応用について、事例を示しながら解説したい。

W3 10:00~12:30 HTPP テスト

高橋 依子 (大阪樟蔭女子大学)

描画テストにはさまざまな種類があり、とらえたいパーソナリティの側面によって、課題が選ばれる。その中で、パーソナリティを多面的にとらえたいときには、家、木、人を4枚の用紙に描く HTPP テストが用いられる。複数の課題の描画を組み合わせで解釈していくことから、クライアントの適応水準、精神的成熟度、情緒の安定度、パーソナリティの統合度などの他、自己認知や、家族への認知、対人関係などが明らかになる。今回は、HTPP テストの基礎的な実施法と解釈法について解説したい。

W4 10:00~12:30 はじめての描画療法 (スタディー&プラクティス)

杉浦 京子 (アーツセラピー研究所)

描画（絵画）療法の概説と実習を致します。概説では描画（絵画）療法の実践方法、治療的要因、実践に際しての注意点などを中心にレクチャーいたします。実習は導入技法としても治療技法としても使用できる相互スクイグル（なぐり描き）法を実施しますので、16色～24色程度のクレヨンを持参してください。初心者はもちろん、ベテランもブラッシュアップにどうぞご参加ください。参考書「はじめての描画療法」杉浦・金丸編 新曜社 2018